

那珂市観光振興計画（案）

～ “ともに発見 きらり発見！光れ！なかの魅力” ～



ひまわり



八重桜



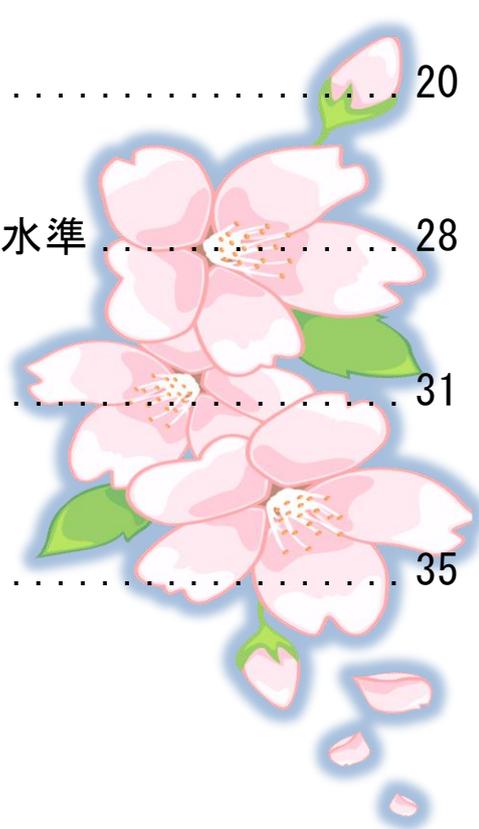
白鳥

平成25年6月

茨城県那珂市

那珂市観光振興計画
目 次

I. 観光振興計画策定の趣旨	1
II. 観光振興の意義・目標	3
III. 那珂市観光の現状と課題	6
IV. 那珂市観光の振興方向	15
V. 観光振興推進プロジェクト	20
VI. 実現化へのプログラムと目標水準	28
VII. 那珂市観光の推進体制	31
資 料 編	35



I . 観光振興計画策定の趣旨

1. 計画策定の趣旨

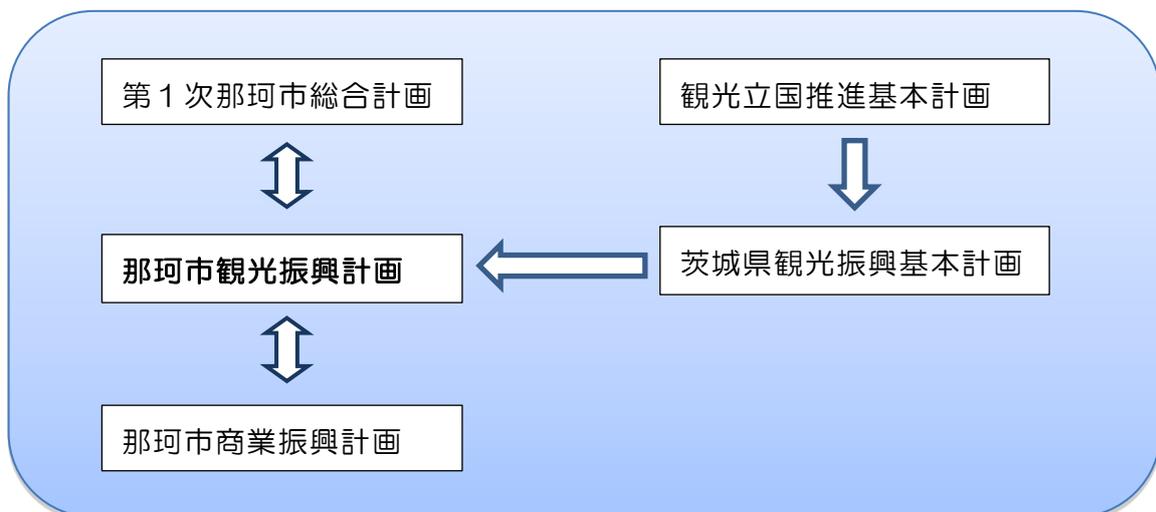
那珂市においては、合併前の平成5年に「那珂町観光基本構想」が策定されましたが、それ以降、観光に関する計画の策定は行われていませんでした。そこで、平成20年に「那珂市観光振興懇話会」を設置し、市内に所在する観光資源の分析、観光の現況と課題の抽出を行いました。

那珂市は、年間を通して集客力のある観光資源はなく、「八重桜まつり」や「なかひまわりフェスティバル」のイベントによる一過性の集客にとどまっており、観光シーズンには、他観光地への単なる通過点となっていることがその中で指摘されました。

こうした状況を踏まえ、市内に点在する豊かな自然、文化、歴史、産業、人などの観光資源を見直すとともに、地域の特性を活かした資源を活用することにより産業を元気づけ、地域の活性化及び発展を図ることを目的として「那珂市観光振興計画」を策定するものです。

2. 計画の位置づけ

本計画は、第1次那珂市総合計画（後期基本計画）、那珂市商業振興計画及び観光立国推進基本計画（※）、茨城県観光振興基本計画（※）との整合を図りながら、観光振興計画策定委員会における審議の結果を踏まえ、那珂市の観光振興の基本方針と基本施策の方向を示すものです。



(※) 観光立国推進基本計画

2011年3.11東日本大震災からの復興、国民経済の発展、国際相互理解の増進、国民生活の安定向上を基本的方針とした国の基本計画。

(計画期間：平成24年度から平成28年度までの5か年計画)

(※) 茨城県観光振興基本計画

平成18年度に策定された旧「茨城県観光振興基本計画」を見直し、県を取巻く社会経済環境の変化と東日本大震災による観光施設の復旧・復興対策を柱とする県の基本計画。

(計画期間：平成平成23年度から平成27年度までの5か年計画)

3. 計画期間

本計画の期間は、平成25年度から平成29年度までの5年間を計画年次とし、必要に応じて見直しを行います。



なかひまわりフェスティバル



静峰ふるさと公園



古徳沼

Ⅱ．観光振興の意義・目標

1. 観光振興の意義

(1) 産業の側面（地域産業の振興）

人と人との交流を促進する観光は、旅行業、宿泊業、運輸業にとどまらず、飲食業、みやげもの販売を含む小売業、さらには農林水産業や製造業など、様々な産業への経済波及効果のある裾野の広い総合産業です。

観光の振興は、これら広範囲の産業を元気にし、地域経済を力強いものにする事が可能です。

(2) 文化・まちづくりの側面（郷土愛の醸成）

観光は、旅行者が日常生活圏を離れて非日常を体験するものであり、その言葉が示すとおり、訪れた地域の「光=優れたもの、特色」を観ることです。

一方、地域にとっては、来訪者に自らの地域の誇りを示すことであり、そのことが、地域の歴史や文化、伝統などに対する理解を深め、地域に対する誇りと愛着を育み、まちづくりを促進することが可能です。

2. 観光振興の目標

那珂市における観光は、集客力を持つ有名で明媚な自然観光資源に乏しいものの、歴史的価値のある名所旧跡は点として存在しています。しかし、線としてのつながりに弱く、多くの資源がそのまま人が集まるというものではありません。

このことから、那珂市の観光振興の目標は、従来一般的な観光振興の意義・目標（定義）を踏まえつつも、市の地理的条件やポテンシャルなどを勘案し、観光を交流産業と位置付けることにより、観光を切り口として「地域産業の活性化」と「地域を元気づける」ことに主眼を置きます。

また、交流産業を活発化することによる交流人口の拡大を通して「市民文化活動を活性化」し、市民が地域に誇りを持ち、生活の質を高めることにつなげていきます。

さらに、イベントなどの催事により集客を図る「集める」という従来からの既成概念にとらわれることなく、地域の魅力を向上させることにより「集まる」という新しい切り口で観光振興施策を考えていきます。

ともに発見 きらり☆発見！ 光れ！なかの魅力

振興目標 1

観光を切り口にして、交流人口を拡大することにより、
地域産業の活性化を図ります。

地域の元気のためには交流人口の増加が課題となっていますが、観光事業の促進によって交流人口の拡大が期待されます。

そのため、商業や農業をはじめとする地域産業と観光が連携しながら交流事業を
活発化することにより、那珂市を訪れる観光客の増加を図るとともに、観光客の消
費拡大により、地域産業の元気と市民の元気を高めていきます。

振興目標 2

市民が一丸となって市の魅力づくりに取り組むことにより、
文化活動の活性化と地域の魅力を高め、市のイメージアップ
を図ります。

近年、観光需要や旅行形態の多様化に伴い、従来の「名所・旧跡を回る物見遊山
型観光」から、「知る・学ぶ・体験する型の観光」形態への比重が高まってきていま
す。

観光振興のためには、来訪者の様々な需要に対応し、ニーズに合ったサービスを
提供する能力（対応力）が要求されます。

那珂市の観光についても、名所・旧跡を巡る観光に加え、地域資源に親しみなが
ら自分で体験し、学ぶタイプの観光形態への対応（「体験型観光への対応充実」・「料
理・物産等の充実」・「特産品開発と観光との連携」）を目指します。

そのため、地域の歴史、文化、特産品や食などの資源に磨きをかけ強めていくと
ともに、市内外の人々との交流事業を活発化し、地域の魅力を一層高めていきます。

振興目標 3

市民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ち、光（資源）を放つことにより、広く魅力の発信を図ります。

市民一人ひとりを観光資源と位置付け、郷土に対する愛着と誇りを醸成することにより、ひいてはホスピタリティーの意識の啓発を促し、おのおのが魅力を発信するとともに、来訪者に対して市民誰もがおもてなしができる「観光案内人」になれるよう郷土愛の醸成を目指します。

また、那珂市が県北観光拠点への窓口的位置にあることから、広域観光連携の視点を取り入れ、周辺市町村と連携がとれる体制づくりを目指すとともに、観光キャンペーンやインターネットなどの広報媒体を活用し、那珂市の魅力の発信力を高めていきます。



Ⅲ. 那珂市観光の現状と課題

1. 那珂市観光の現状

(1) 観光の現状

市内には、単体で観光客を引き寄せる著名な名所旧跡などの観光資源は少ないものの、神社33社、寺院15寺のほか多数の文化財があります。

また、静峰ふるさと公園、清水洞の上公園、茨城県植物園、県民の森をはじめ、冬季には、白鳥が飛来する古徳沼や一の関ため池親水公園など、自然と触れ合うことのできる公園が多数存在しています。

さらに、市内には南北に国道118号、349号そして常磐自動車道が通り、市内には那珂インターがあります。平成23年には北関東自動車道が開通し、東北自動車道、関越自動車道と接続され東西を結ぶ経済流通の大動脈として、また、県北観光拠点への玄関口として今後ますます利用者の増加が期待されています。平成22年には茨城空港が開港し、経済成長が見込まれる韓国、中国などアジア諸国からの観光客をはじめ路線の拡大による利便性の向上に伴い、国内観光客の新たな玄関として、JR常磐線の東京駅乗り入れ計画など交通インフラの整備は、観光客誘致に向けた強力なアイテムとしての活躍が望まれています。

これらの交通インフラが整備・計画されている中、観光客の単なる通過点となっている那珂市においては、観光客の足を止めるワンストップ拠点の整備や、近隣市町村との広域連携によって、一体的に地域資源をPRしていく体制が不十分であると言わざるを得ない状況です。

また、市内の地域産業は、農業、商業、工業とも縦割りの状況であり、それぞれが共通認識を持ち、情報を共有できる横断的な体制が構築されていない状況にあります。



(2) 観光データに見る現状

那珂市の観光入込客数は、静峰ふるさと公園、古徳沼、茨城県植物園、観光イベント（八重桜まつり、なかひまわりフェスティバル）など、平成20年度の35万5千人をピークに減少を続け、平成23年度は、東日本大震災の影響により、16万人となっています（茨城県は21年度ピークに減少）。

観光データの数値を分析すると、観光イベント（八重桜まつり、なかひまわりフェスティバル）に集客の多くを依存していることが分かります。また、静峰ふるさと公園や古徳沼など静態的資源は減少傾向、観光イベントなどの動態的資源は増加傾向となっています。

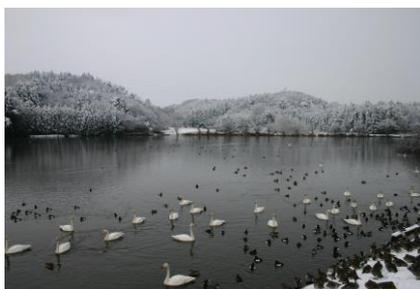
那珂市観光入込客数の推移

(人)

	H19	H20	H21	H22	H23
八重桜まつり	82,000	89,000	83,000	91,000	31,000
ひまわりフェスティバル	67,000	166,000	87,000	3,000	50,000
古徳沼	25,500	12,200	11,000	19,700	7,000
茨城県植物園	107,600	88,300	73,900	64,600	59,400
カミスガプロジェクト	—	—	—	—	12,600
那珂市合計	282,100	355,500	254,900	178,300	160,000
茨城県	41,451,400	42,313,500	45,805,400	44,766,500	34,631,500

(注) 20年度のみまわりフェスティバルは、11月2日～3日の2日間
22年度のみまわりフェスティバルは、荒天のため中止、12月に花火のみ実施

資料：茨城県、那珂市



古徳沼



茨城県植物園

2. 那珂市観光を取り巻く環境の変化

(1) 少子高齢化の進行

少子高齢化の進行に伴い、生産年齢人口の減少とともに超高齢化社会を迎えるようになった現在、内需の縮小による経済活動の低下が懸念されています。

那珂市においても例外ではなく、全国同様少子高齢化が進行しており、今後の人口の増加は望めない状況です。市の人口は、平成17年の56,607人をピークに減少に転じ、平成29年には、55,100人に減少すると推計されています。

また、少子高齢化による定住人口の減少に伴い、地域から活気が徐々に失われてきています。地域の元気回復のためには、交流人口の増加が課題となりますが、交流人口の増加にとって「観光」の果たす役割が大きくなり、同時に「観光」をキーにした地域間競争も激しくなっています。

(2) 経済環境の変化

経済環境は、バブル崩壊後失われた20年と言われるように、停滞状況が続き、2008年にはリーマンショックに見舞われるなど厳しい状況にあります。

国や地方の財政状況は悪化度を増し、日本経済・地域経済は停滞裡に推移しています。国としても様々な景気対策を講じていますが、大きな成果を上げることはかなわず、依然として厳しい経済環境にあります。徐々に景気回復の兆しが見え始めています。那珂市における、事業所数・従業員数は、商業、工業とも減少しています。

(3) 観光形態の多様化

観光白書においては、今後の生活で重点を置きたい分野として、レジャーや余暇生活が最も多くなっており、観光需要の増加が見込まれています。また、近年のライフスタイルや価値観の変化に伴い、観光需要においても旅行形態の多様化が進んできています。これまでは、名所・旧跡を巡る「物見遊山型」マスツーリズム（パッケージ型ツアー）が一般的でしたが、「知る、学ぶ、体験する型」の観光形態であるニューツーリズム（※）への関心が高まってきています。

これからの観光振興のためには、来訪者の様々な需要に対応し、ニーズに合ったサービスを提供する能力が要求されています。

(※) ニューツーリズム

従来の観光旅行に対し、地域の人々や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しい形態の旅行。

(4) 東日本大震災

東日本大震災は、東日本各地に想像を絶する想定外の未曾有の被害をもたらし、当市においても、地震による家屋の損壊やインフラをはじめ、観光施設や神社仏閣などへも大きな被害をもたらしました。

さらに、原子力発電所の事故により、商工業への間接的被害、農畜産物の出荷制限や風評被害など市の産業に大きな損害をもたらしました。



震災後の栗原釣場



震災後の清水洞の上公園

3. 新たな動き・・・自主活動団体の活躍

環境や地域活性化など様々なテーマを掲げたNPO法人など、民間による自主活動団体の活動の輪が広がりを見せ、市内外で活発な活動が展開されています。

☆NPO 法人夢 AKARI

那珂市内外の各種イベントにおいて、灯籠などによるライトアップ事業などを開催し、文化の交流とまちづくりの推進、環境の保全と地域の活性化を図る活動を推進している団体です。

静峰ふるさと公園で開催される「八重桜まつり」や曲がり屋で開催される「月見の会」では、キャンドルによるイベント「夢AKARI」を演出したり、県植物園などの施設でナイトガーデンの演出などの活動を実施しています。各種事業を通じた地域経済の活性化に寄与する活躍が期待されます。



夢AKARI

☆清水洞の上自然を守る会

斜面林と湿地帯の豊かな自然環境が多く残る清水洞の上公園の管理を行い、後世に良好な環境で引き継いでいくための保全活動を行っています。

また、環境の保全活動を通して地域の環境意識の高揚と福祉向上に寄与している団体です。

将来にわたり継続した保全活動と賛同者の拡大が期待されます。



清水洞の上公園

☆観光ボランティアガイド那珂

那珂市内を訪れる観光客などをおもてなしの心で迎え、市内の歴史、文化、自然などを案内紹介するボランティアガイドです。観光地巡りや観光地散歩（漫遊ウォーキング）で観光ガイド活動を始めており、会員の増加を図るとともに、活躍の場が広がることが期待されます。



観光ボランティアガイド

☆カミスガプロジェクト

上菅谷駅前に新たな街づくりを目指し、市民を中心に近隣市町村の有志が集まった非営利で活動する市民団体です。

水郡線上菅谷駅を「カミスガ」と称し、駅前宮の池公園通りを那珂市の中心地として、また県北地域の玄関口と据え、テントや車両の店舗、市民団体がブースを並べる1日限りの商店街を出現させ、様々なイベントを催し、多くの集客と情報を発信しています。



カミスガ



カミスガ

カミスガ来場者数

2011年10月2日	12,800人
2011年12月4日	6,000人
2012年 4月1日	22,800人
2012年 6月3日	17,800人
2012年10月7日	21,000人
2012年12月2日	30,000人

(カミスガプロジェクトより)

☆額田城跡保存会

額田城跡の保存管理活動を実施している団体です。

清掃活動や遊歩道の整備に加え、観光客などへの観光案内や、機関誌の発行などの活動を行っています。

平成24年3月には市額田城跡保存管理計画が策定され、伐採や遊歩道の整備による現状保存での計画が進められており、歴史的観光名所としても期待されます。



額田城跡

☆いばらき森林クラブ

森林の間伐、枝打ち、下草刈りなどの森林活動や里山の保全活動を行っている団体です。

また、森林の中を歩く「静古徳古道」の整備や森林ボランティア育成講座を開講するなどの活動を通して、環境に対する意識と森林愛護に努めています。



静古徳古道

☆NPO 法人ひろがる和 那珂つるしびなの会

市在住の女性を中心に「那珂のひなまつり」を開催し、まちの活性化と福祉の増進に寄与する団体です。

身近な材料や古布などを利用してつるしびなを作成し、曲がり屋など9会場で展示しています。



那珂のひなまつり

雛のつるし飾り来場者数

平成21年度	17,500人
平成22年度	20,000人
平成23年度	30,000人

(NPO 法人 ひろがる和より)

☆那珂市歴史同好会

歴史愛好者の交流活動団体で、歴史的文化資源にスポットを当て、地元小学生や地域とともに文化保護活動や、文化資源に対する愛護精神の醸成と地域活動を行っています。

また、案内看板の設置やパンフレット作成など情報発信にも努めています。



まちめぐりマップ

4. 那珂市観光の課題

課題1. 観光交流産業による地域産業の活性化の仕組みづくり

・・・連携した受け入れ体制づくり

定住人口減少社会で、地域の元気のためには交流人口の増加が課題となりますが、那珂市の観光振興については、観光を「交流産業」と位置づけ、観光を切り口にして地域産業の活性化、市民を元気づける仕組みづくりが求められます。

そのためには、「農・商・工・学」と「観光」が共通認識を持ち、横断的な協働連携体制を構築し、一体となって産業総掛かりで取り組む仕組みをつくるのが課題となります。

また、交流事業を通して、市民の文化活動を活発にすることにより、市民が地域に誇りを持ち、市民の生活の質を高めることが課題となります。

市民一人ひとりがホスピタリティの精神と地域に誇りを持つことにより、地域(市民)全体でおもてなしの心を醸成し、人間対人間としての受け入れ体制の構築に取り組むことができるようにすることで、口コミ効果とリピーターの増加を引き出すことができるようにする必要があります。

課題2. 資源の活用と魅力づくり

・・・さらなる観光資源の発掘と素材に磨きをかけての魅力づくり

那珂市の観光は、外部の活力を導入することによって新たな魅力づくりと地域を元気づけることが求められます。

交流の魅力づくりには、素材の持つ求心力・吸引力を見極め、素材に一層の磨きをかけるとともに、さらなる観光資源の発掘とそれらの資源の融合を図ることにより、新たな求心力を持った独自の魅力づくりをする必要があります。

例えば、神社・仏閣・城跡などの歴史文化資源を融合して、歴史ロマンロードをストーリー仕立てで巡るコースを構築したり、健康やスポーツなど時代のニーズに即応した新しいイベントを軸とした交流活動を打ち出せるかなどが課題となります。

また、ニューツーリズムについては、農・食体験と歴史・文化、祭り体験などを組み合わせ、学び、体験の基盤をつくること、年間を通して農業体験ができる農場の確保や指導者の育成と確保などが課題となります。

課題3. 情報発信とPRの充実

・・・観光の総合案内と情報発信の拠点づくり

那珂市に行けば何かがある、何かが分かるとの期待(イベント型、日常型、総合的なもの)と観光客の多様化するニーズの変化に対応した新鮮な情報の提供に答えられるようにする必要がありますが、総合案内的なものが不十分です。

このため、市内観光ルートなどの観光情報を広く周知することにより、市の総合的な観光がわかるようにするための情報発信が課題となります。

また、市民一人ひとりが、住んでいる地域や日常の生活文化に愛情を持つことにより、親しみある情報発信が出来るようにする必要があります。

課題4. 広域的連携の強化

・・・多角的広域的視野と競合エリアとの連携づくり

那珂市の観光はそれだけで完結するものではなく、「中間点」及び県北観光拠点への「玄関的位置」との認識を持ち、水戸市や、大子町など他の地域との連携を図るなど、広域観光連携の視点を取り入れることができるかが課題となります。

また、周辺観光資源と連携したPR体制を構築することにより、那珂市の情報のみならず広域的情報が提供できるようにする必要があります。



水戸黄門様漫遊ウォーク



みなと区民まつり



水戸黄門様漫遊ウォーク

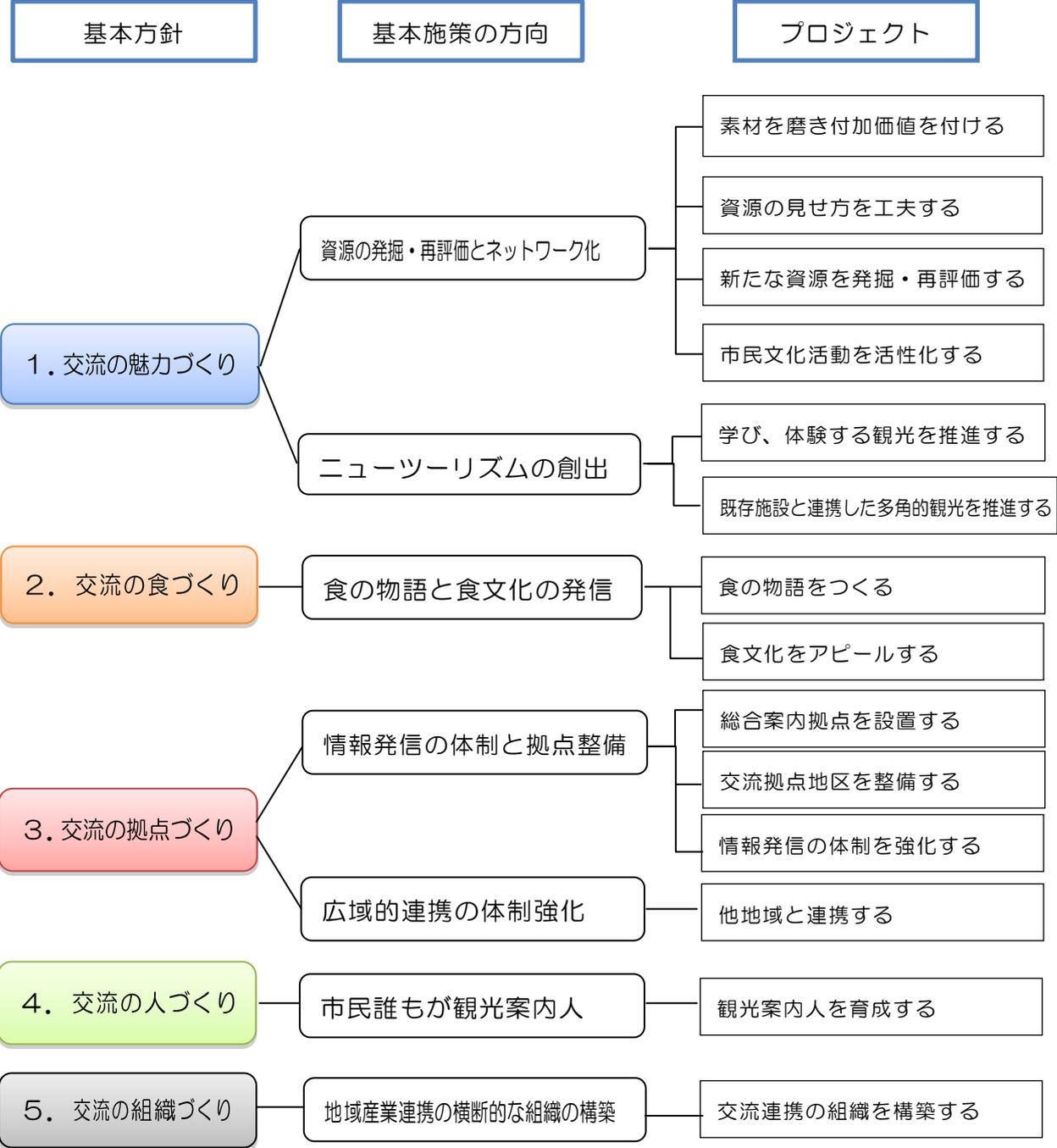


朝霞市民まつり

IV. 那珂市観光の振興方向

1. 那珂市観光振興の施策体系

那珂市の観光振興の方向については、那珂市観光の現状と課題を踏まえ、3つの振興目標を達成していくために、次の5つの基本方針のもとに、基本施策の方向と、それぞれについて具体化するためのプロジェクトを推進していきます。



2. 基本施策の方向

資源の発掘・再評価とネットワーク化

(1) 素材を磨き付加価値を付ける

定住人口減少社会に入り、地域の元気のためには交流人口の増加が課題となっています。交流人口増加のための観光資源はたくさんありますが、多くの資源がそのまま人がたくさん集まるほどのものでもないことから、素材を磨き付加価値を付けることにより、交流の魅力づくりに力を入れる必要があります。

(2) 資源の見せ方を工夫する

市の観光資源は有効に活かされていないということから、資源をネットワーク化し、資源の組み合わせや見せ方などを工夫して物語化することにより、資源の魅力を高め有効活用していく必要があります。

(3) 新たな資源を発掘・再評価する

特産品の開発や観光資源としてまだ活かされていない資源の活用を図るなど、新たな資源の発掘に努める必要があります。

また、既存資源についても、多角的視点で新たな魅力を見出す必要があります。

(4) 市民文化活動を活性化する

市民文化の活性化も交流の有力な要素であるため、交流の魅力づくりプロジェクトは、市民ぐるみで推進する必要があります。



静峰ふるさと公園



曲がり屋

ニューツーリズムの創出

(1) 学び、体験する観光を推進する

学び、体験する観光についてはまだ部分的で、今後、地域資源を「農・商・工・学・観光」が連携し、一体となった体験型観光として推進することで、魅力を高めたいく必要があります。

(2) 既存施設と連携した多角的観光を推進する

既存施設や資源をスポーツ、学習、体験、食、観光などのジャンルごとにメニューを自由にコーディネートすることにより、自分専用の観光をつくるなど、家族みんなが楽しめる新たな観光を創造し提供していく必要があります。

食の物語と食文化の発信

(1) 食の物語をつくる

観光振興にとって、「食」の果たす役割には大きなものがあります。特色ある「食」を求めてその地域を訪れ、その地域の食のファンになり、ひいては地域そのものを好きになることが多くあることから、市の農産物をはじめ、市内の魅力ある食材を活用して、新たに食を物語化することにより、「食」を核とした交流を目指す必要があります。

また、特色ある農業生産×農産加工×外食を含む食品販売など、「農と食の連関」について、6次産業化を進め、那珂市の「食」の魅力向上を図る必要があります。

(2) 食文化をアピールする

古くから食されてきた郷土料理や伝統的家庭料理など、特色ある食文化を掘り起こし、那珂市の食の実態を明らかにして内外にアピールする必要があります。

情報発信の体制と拠点整備

(1) 総合案内拠点を設置する

市の観光は、総合案内的なものが不十分であるため、常磐自動車道那珂 IC 周辺や、国道 118 号、349 号沿線、水郡線駅周辺など、まちなかや交通導線を考慮したポイントへの案内看板を設置します。

既存の施設や空き施設を活用した総合案内所などの拠点を設けたり、観光マップを作成したりして、多くの人に市の観光ポイントがわかるようにする必要があります。

(2) 交流拠点地区を整備する

観光資源の集積状況などにより交流拠点と位置づけられる地区については、重点的に整備を進める必要があります。

交流拠点地区は、地域の人々の情報交換の場として、また、観光客と地域の人々が気軽に触れ合うことができる交流の場としての機能を持たせる必要があります。

(3) 情報発信体制を強化する

観光客のニーズに対して、スピーディーかつ的確な観光情報を提供するとともに、那珂市に興味を持ってもらえるような観光情報の発信が求められることから、マーケットやターゲットを絞った効果的な PR を進める必要があります。

広域的連携の体制強化

(1) 他地域と連携する

他の地域との協力体制を強化し、広域観光連携による市の観光資源の魅力をより高めていくとともに、相互協力による観光資源の効果的な広報を進める必要があります。

市民誰もが観光案内人

(1) 観光案内人を育成する

市民が地域に愛着と誇りを持ち、一人ひとりが魅力ある資源（光）となって、地域総ぐるみで推進していく必要があります。

このため、市民も事業所も誰もが観光案内人となり、身近なところからまちの案内ができ、観光客をもてなすことができるよう、歴史教室の開催などを開催し、観光案内人の育成と資質の向上を図る必要があります。

観光PRの第一は、訪れた人に楽しく、感動して帰ってもらうこと、それこそがリピーターを生み出す最善の策と考えます。

地域産業連携の横断的な組織の構築

(1) 交流連携の組織を構築する

観光を地域産業活性化の手段として位置づけることから、農商工学が総掛かりで協働・連携するなど、地域の産業が総掛かりで取り組むための横断的な組織づくりが求められています。

そのために、個々の事業を積み重ね、連携・協働の機運を高めながら、全体の組織化を図っていくようにする必要があります。



観光PR（東京）



水戸藩！味な城下町まつり

V. 観光振興推進プロジェクト

1. 観光推進プロジェクト

ここでは、基本方針に沿った7つの基本施策の方向に基づくプロジェクトについて、現在構想されている具体的な事業内容を示します。

基本方針	基本施策の方向	プロジェクト・事業内容
1. 交流の魅力づくり	資源の発掘・再評価とネットワーク化	<p>(1) 素材を磨き付加価値を付ける</p> <p>◎ 佐竹さん・黄門さんプロジェクト 額田地区を中心として、佐竹さん・黄門さんゆかりの史跡を楽しみながら学び、回遊する訪問者を市民ぐるみで受け入れます。</p> <p>◎ ひまわりプロジェクト ひまわりフェスティバルのさらなる発展を目指すとともに、ひまわりの花を楽しんでもらうだけでなく、ひまわり油の他さらなる展開を図り、循環型プロジェクトによるアピールを検討します。</p> <p>◎ ブランドプロジェクト 那珂市の特産品や観光資源の独自ブランド化を図り、統一した名称を冠しイメージアップと魅力向上に向けたプロモーションを展開します。</p> <p>(2) 資源の見せ方を工夫する</p> <p>◎ 桜プロジェクト 開花時期の異なる阿弥陀寺のしだれ桜や静峰ふるさと公園のソメイヨシノ、八重桜などを活用し、長期間楽しめるよう桜の名所をPRします。 また、他地域と連携し、桜周遊コースを設定するなどネットワーク化を図り集客を増やします。</p>

<p>1. 交 流 の 魅 力 づ く り</p>	<p>資源の発掘・ 再評価とネット ワーク化</p>	<p>◎ ひな飾りプロジェクト 歴史民俗資料館の雛人形展、那珂のひなまつりと市内商店や事業所等が連携して、街なかでもひな飾りを開催し、ひな祭りの面的な展開を図ります。期間中は市内を巡れるよう周遊化を図るとともに、市民のまちづくりの意識を高めます。</p> <p>◎ 観光資源のネットワーク化 ～那珂市の歴史と水と緑の回廊（資料1参照）～ 「歴史、モノ、コト、ヒト」をネットワーク化し、モデルコースの魅力を市民ぐるみで発展させていきます。</p> <p>(3)新たな資源を発掘・再評価する</p> <p>◎ 暮らしのデザインミュージアム 那珂川、白鳥、植物園、きのこ博士館や静織など、伝統文化などの地域資源を再評価して活用します。</p> <p>(4)市民文化を活性化する</p> <p>◎ 健康スポーツイベントの開催 時代の流れに即応した健康スポーツイベントを開催します。</p> <p>◎ 市民文化活動の活性化 伝統文化(静織り)、祭り(額田まつり、菅谷まつり)、食など市民文化活動を支援するとともに、静峰ふるさと公園内「交流センター」をフリースペース(ミニギャラリー、スタジオなど)として開放し、市民文化活動の活発化を促します。</p>
---	------------------------------------	--

<p>1. 交 流 の 魅 力 づ く り</p>	<p>ニューツーリス ムの創出</p>	<p>(1) 学び、体験する観光を推進する</p> <p>◎ 農商工学観光連携プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業(生産、収穫)体験、食農体験、加工体験、伝統文化体験などのツアーを企画します。 ・ 市内の学校と連携・協働し、フリーマーケットや収穫祭を開催したり、食探検コースや食マップなどを作成します。 <p>◎ 農産物・桜のオーナー制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物のオーナー制度により、米、常陸秋そば、那珂カボチャ、ひまわり、たけのこなど那珂市特産のオーナーを募り、農業の振興と那珂市へのリピーターを確保します。 ・ 桜のオーナー制度により、育樹体験などによる、静峰ふるさと公園への愛着心の醸成とリピーターを確保します。 <p>(2) 既存施設と連携した多角的観光を推進する</p> <p>◎ ファミリーユース向け多角的体験観光</p> <p>家族それぞれの個々のニーズに合わせた、体験型観光を提供します。</p> <p>(古民家生活体験(囲炉裏、昔話)、農作業体験、ヘルシー料理体験、植栽作業体験など)</p> <p>◎ ロケ地の創出</p> <p>映画やCMなどのロケーションを誘致し、ロケ地を活用した新たな魅力を創出します。</p>
---	-------------------------	---

<p>2. 交 流 の 食 づ く り</p>	<p>食の物語と 食文化の発信</p>	<p>(1)食の物語をつくる</p> <p>◎ 食の物語化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の食材を活用した食の物語化を推進することにより、食の交流を活性化します。 <p>(那珂かぼちゃ、奥久慈なす、常陸秋ソバ、青大豆、とうもろこし、パン工房、七運汁、人気の蕎麦店など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいファーム芳野、とんがりはっと、JAひたちなかなどの直売所を活用し、食の交流を活性化します。 <p>(2)食文化をアピールする</p> <p>◎ 食文化の発信</p> <p>昔ながらの郷土料理や今はほとんど食されなくなった伝統的家庭料理など、特色ある食文化を掘り起こし、市の食の実態を明らかにして内外にアピールします。</p> <p>(ごじる、しおびき、納豆もち、粉もちなど)</p>
---	-------------------------	---

<p>3. 交 流 の 拠 点 づ く り</p>	<p>情報発信の体制 と拠点整備</p>	<p>(1)総合案内拠点を設置する</p> <p>◎ 案内拠点の整備 常磐自動車道那珂 IC 周辺、国道 118 号、349 号沿線、まちなかで案内看板の新設、空港施設や既存施設を案内拠点として活用します。</p> <p>◎ 水郡線駅の活用 市民団体などにより、駅前広場でバザーや農産物販売などの開催を検討します。</p> <p>◎ 観光サインの設置 民間活力と連携（スポンサーの活用）を図った観光サインの整備を行います。</p> <p>(2)交流拠点地区を整備する</p> <p>◎ 市内交流拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫跡や廃校を、観光の総合的な拠点、芸術文化活動の拠点、食文化体験の場として活用します。 （音楽・絵画館、ダンス・スポーツ館、食の地産地消体験館など） ・額田地区は国道 349 号沿線に位置し、阿弥陀寺をはじめ、神社・仏閣や額田城址などの歴史的資源に恵まれた地区で、新たに地ビール工場も建設されており、学び・体験型の観光を進めるのに格好の地です。 <p>◎ 市内交流拠点の情報交流 曲がり屋で、市民も観光客も囲炉裏を囲み、特産品による創出料理や匠が淹れたお茶、コーヒーや地元菓子を味わいながら情報交換と交流を深め、おもてなしとともにファンの創出を図ります。</p>
---	--------------------------	---

4. 交 流 の 人 づ く り	市民誰もが 観光案内人	<p>(1)観光案内人の育成</p> <p>◎ 市民誰もがまち案内人 文化講座、歴史教室などにより、市民観光ボランティア、歴史ボランティアを育成します。 また、おもてなし研修などを通して、市民誰もが観光案内人となれるようにします。</p> <p>◎ 那珂市暮らしのデザイン大学校（資料2） 市内のあらゆる資源を学びのキャンパスとして活用し、市民が体験と交流をとおして学ぶことにより、ふるさと学芸員として認定して、交流を促進していきます。</p>
5. 交 流 の 組 織 づ く り	地域産業連携 の横断的な 組織の構築	<p>(1)交流連携の組織を構築する</p> <p>◎ 地域産業の連携 「農・商・工・学・観光」及び「市・商工会・農協」が、事業目的を共通認識するとともに、協働して横断的に取り組めるような組織を構築します。</p>



アンテナショップナカマロちゃんの店



観光PR（埼玉県）

2. 重点プロジェクト

(1) 重点プロジェクトの選定

1. で示した観光振興推進プロジェクトは、早期実現が可能なもの、大きな効果が期待されるものから、実現までにはかなりの時間を要すものまで様々なプロジェクトを掲げました。

ここでは、特に積極的かつ重点的に取り組むべきプロジェクトについて、「市の特色や地域性、地域産業の活性化」という観点から7つの重点プロジェクトを選定しました。

これらの重点プロジェクトが先導役となり、各種プロジェクトをリードしながら観光振興を推進していきます。

(2) 重点プロジェクト

<資源の発掘・再評価とネットワーク化>

- ◎ 佐竹さん・黄門さんプロジェクト
- ◎ ひまわりプロジェクト
- ◎ ブランドプロジェクト
- ◎ 那珂市の歴史と水と緑の回廊（資料1）
- ◎ 農産物・桜のオーナー制度

<食の物語と食文化の発信>

- ◎ 食の物語化と食文化の発信

<市民誰もが観光案内人>

- ◎ 那珂市くらしのデザイン大学校（資料2）

VI. 実現化へのプログラムと目標水準

1. 重点プロジェクトの数値目標

重点プロジェクトについて、短期(1年)、中期(3年)、長期(5年)の3期にわけて、実現化のプログラムと数値目標を示します。

重点プロジェクト計画の推進にあたっては、社会情勢、経済状況、観光ニーズの変化の動向を踏まえ、また、PDCAサイクルによる見直しを基に柔軟に展開していきます。

重点プロジェクト	主な推進者	時間軸			数値目標
		短期	中期	長期	
●佐竹さん・黄門さんプロジェクト 史跡を楽しみながら学び、回遊するコースの設定 額田城跡のさらなる整備 観光・歴史案内人の養成	民間団体 (歴史ボランティア、観光ボランティア)				歴史ボランティア 観光ボランティア 会員5名増
●ひまわりプロジェクト ひまわりを使用した多角的活用の拡大を探る	民間、商工会				ひまわりオイル取扱店 15店舗増
●ブランドプロジェクト 那珂市特産品認定制度の創設(地域ブランド)	市、商工会、JA				那珂市特産認定品 5品目認定
●那珂市の歴史と水と緑の回廊 「歴史、モノ、コト、ヒト」の推奨モデルコースの設定	民間団体、 観光協会				推奨コース 4コース
●農産物・桜のオーナー制度 農産物、八重桜のオーナー募集 那珂市ファンの確保とリピーター化	JA、観光協会				オーナー制度 5人
●食の物語化と食文化のアピール 那珂市特産品を主人公とした物語化による 食の交流の活性化	民間団体				那珂市特産認定品物語 5品目物語
●那珂市暮らしのデザイン大学校 ～那珂市生活デザインミュージアム構想～ 市民を対象に学芸員を養成認定し、市民総力あげて の魅力発信	市、観光協会 民間団体				市民学芸員 5人認定

2. 観光振興の目標水準

ここまでは、観光振興のために考えられる様々なプロジェクトについて述べてきましたが、市の観光振興の大きな目的は、「交流人口の拡大による地域の活性化」にあります。このため、活性化の指標となる観光入込客数、そこから波及する経済効果、及び市観光協会ホームページのアクセス件数について、次のように目標水準を設定します。

(1) 観光入込客数

観光入込客数は、平成23年の16万人から29年には30万人、5年間で14万人増を目標とします。

【年間観光入込客数】

現状値（平成23年）	→	目標値（平成29年）
16万人		30万人

(2) 経済波及効果

平成29年度、30万人の観光入込客数を想定した場合、それが地域産業にどのくらい還元されるのか、宿泊費や飲食費、施設の入場料や土産物代など様々な分野での消費額はどのくらいになるのか、茨城県の資料に基づき経済効果を算定しました。

これによると、5年後の観光消費額は、7億2,800万円増の15億6,000万円、経済波及効果額は、11億900万円増の23億7,100万円となります。

【経済波及効果】

現状値（平成23年）	→	目標値（平成29年）
1,262百万円		2,371百万円

(3) ホームページアクセス件数

那珂市観光協会のホームページアクセス件数は、平成23年の8万人から29年には15万人、5年間で7万件増を目標とします。那珂市に来訪意向を持つ人々のニーズに合った的確な観光情報を発信するとともに、魅力的なビジュアル、見やすい構成と、常時求められる観光情報のリサーチに努めます。

【ホームページアクセス件数】

現状値（平成23年）	→	目標値（平成29年）
8万件		15万件

観光入込客数・経済波及効果額調

	平成 23 年度 (実績値)	平成 29 年度 (目標値)	増加(人・額)
観光入込客数(人) A	160,000	300,000	140,000
一人当たり(日帰り) 観光消費額(円) B	5,200	5,200	
観光消費額(百万円) $C = A \times B / 1,000,000$	832	1,560	728
経済波及効果乗数 D	1.52	1.52	
経済波及効果額(百万円) $E = C \times D$	1,262	2,371	1,109

注 1) 観光入込客数(A)及び一人当たり観光消費額(B)は、「茨城県の観光レクリエーション現況」(平成 23 年観光客動態調査報告)による。

注 2) 経済波及効果乗数(D)は、平成 14 年度「茨城県観光による経済波及効果分析」による直接効果割合 1.52 倍とした。

VII. 那珂市観光の推進体制

1. 那珂市観光振興計画推進体制の基本方針

観光振興を図る取り組みを継続的に推進していくためには、持続可能型推進体制を構築することが必須です。そのためには、民間活力を主導とした、自主的、独自性をもって動ける推進体制の下、市民、行政、民間事業者、業界団体、観光協会、市民活動団体がそれぞれの役割を果たしながら相互連携を図り、一体となって取り組むことが肝要です。

しかも、観光事業は単一分野というより多分野にまたがっている場合が多く、推進組織としても組織を超えて柔軟かつ機動的に対応する事が求められます。

また、行政としてもフレキシブルかつスピーディーな対応を実現するため、関係部署の連携を図るとともに、民間のノウハウと機動力を活用する事が必要です。

そこで、本計画によるプロジェクトの各種事業を推進するため、また、新たな事業のプロデュースや課題などを検討し、柔軟な活動を実現するため、関係機関や民間事業者、市民などで構成する推進機関「那珂市観光研究所(仮称)」を設置します。

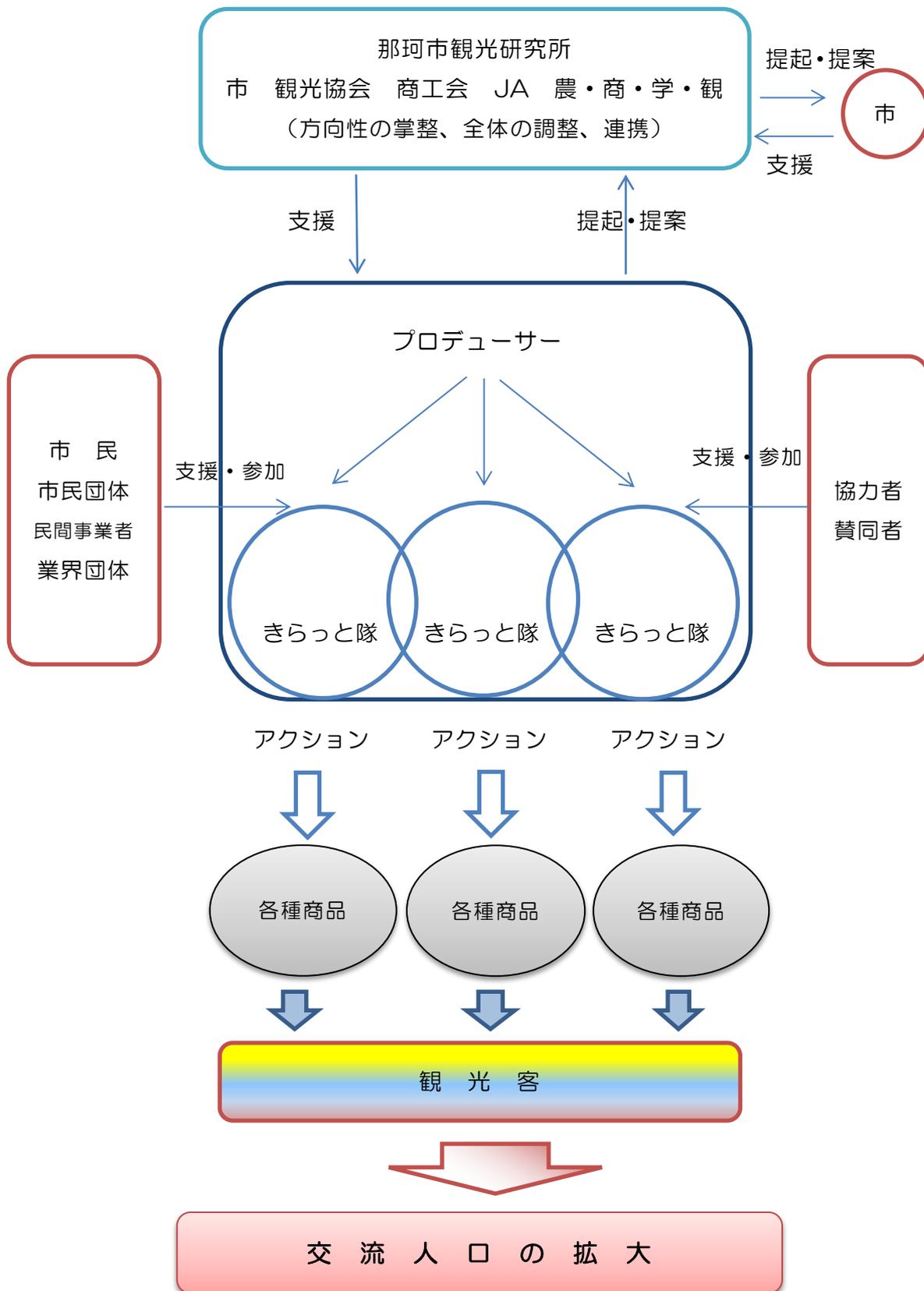
さらに、プロジェクトの各種事業の推進については、事業それぞれの実行部隊「“きらっと隊”(仮称)」を設置します。

「“きらっと隊”」は、重点事業きらっと隊を先頭にして、大小あわせてたくさんのきらっと隊が同時併行的に自主的、機動的にプロジェクト事業を推進し、全体の方向性や全体の動きの掌握については「那珂市観光研究所」の役割となります。

また、きらっと隊全部体の動きや方向性の掌握、「那珂市観光研究所」との調整及びプロデュース、マネージメントなど重要な役割の担い手としてプロデューサーを配置します。

那珂市観光振興計画の推進については、民間の自主的取り組みを最大限に評価支援しながら、官民がともに協働しながら推進していくことを基本とします。

2. 那珂市観光推進体制



3. 主な観光推進者の役割

(1) 那珂市観光研究所（仮称）

研究所は、那珂市観光プロジェクト推進の、総括的役割を担います。行政からの要請を受け、行政の枠を超えて研究所の判断で動くとともに、行政に対して様々な提言や要望をしていきます。

また、当面する観光事業だけでなく、将来に向けての観光事業の研究をしていきます。

(2) きらっと隊

きらっと隊は、観光プロジェクトの実行部隊となり、プロジェクトを商品化することにより、観光客やリピーターの増加につなげていきます。

きらっと隊は、リーダーを中心として賛同者・協力者などによりチームを構成し、必要に応じて関係団体などと連携を取りながら、プロデューサー支援のもとにプロジェクトを推進していきます。

(3) プロデューサー

プロデューサーは、きらっと隊全体の動きや方向性を掌握し、プロデュース、マネージメントなど重要な役割を担います。また、きらっと隊を支援し、必要に応じて研究所ときらっと隊の調整役を担います。

(4) 市

行政組織内を一元化し、国や県、周辺自治体をはじめ関係機関や民間との協議・調整を図り、推進体制の基盤づくりを行います。

また、周辺市町村と連携を図りながら、観光に関する情報の収集と魅力的なイメージの発信を行うとともに、民間事業者など観光振興への取り組みを支援します。

(5) 観光協会

観光振興推進の中心的機関として、更なる組織の強化を図り、取り組みの主導的役割を担うことができるよう充実を図ります。将来的に商品の企画販売を目標に法人化を目指します。

(6) 民間事業者、関係業界団体

商業や農業をはじめ民間事業関係者が、経済活動の中で観光振興に果たす役割が大きいことから、すべての産業関係者が横断的かつフレキシブルに連携協同するこ

とにより、行政及び市民とともにニーズに即した観光振興の創出を図ります。

（７）市民

市民は、地域の自然、文化を再認識することにより愛着と誇りを持つとともに、一人ひとりがまちづくりの主演となれるように意識の高揚に努めます。

また、自らが魅力を発信する資源となり得ることから、訪れた観光客を親戚のように「おもてなしの心」で迎え、那珂市のファンの創出と観光客のリピーター化の担い手となる事を目指します。

さらに、積極的にボランティアや観光イベントなどに参加し、観光振興の推進に関する提言や課題を市へ提起する役割を担います。

（８）観光客来訪者

来訪者は、那珂市を訪れることにより、那珂市の魅力に触れ感動し、那珂市のファンになっていただくとともに、那珂市の魅力を市外へ発信する役割を担います。

また、那珂市のさらなる魅力向上のため各プロジェクトに対する課題、意見、アイデアを市へ提案する役割を担います。



ひまわり大使ナカマロちゃん

資料編（参考資料）

- 資料 1. 「那珂市の歴史と水と緑の回廊」 36
- 資料 2. 「那珂市暮らしのデザイン大学校」 48
- 資料 3. 那珂市観光振興計画策定委員会名簿 53

資料1 「那珂市の歴史と水と緑の回廊」

～観光資源のネットワーク化「歴史、モノ、コト、ヒト」～

(趣旨)

- 地域のお宝を単体でなくネットワーク化し、観光資源としての厚みを加える。
- ネットワーク化した観光資源を取り込んでウォーキングコースを設定する。
- コースを地図上で分かりやすく、またモノ、コト、ヒト別に分けられたコースの特徴を集約する。

(展開)

- 那珂市（及び隣接地域を含む）モデルコースを公募し複数選出。
- コースと案内図をデジタルデータとして合成する。
- ネット上で「観光スポット」ごとに、コース体験者が写真や感想などを自由に書き込めるサイトを構築。
- ネットでは「投稿」をとおして住民・来訪者の参加感を引き出すことができる。
- 毎年度ごとに、コンテストで優秀賞を贈る。

(効果)

- 観光資源を鑑賞し、参加者が触れ合いながら歩くことで健康効果が高まる。
- 地域の観光資源がクローズアップされ、地域のイメージアップ効果が見込まれる。
- 地域への来訪者が増え、食の提供、土産品開発など経済効果が期待できる。



以上を、「那珂市の歴史と水と緑の回廊」として編集、観光ガイドブックに盛り込む。
以下に、4つのモデルコースを例示する。

【コース 1】 ●額田歴史の散歩道 4.4 キロ

●歴史の重層性～佐竹氏・小野崎氏 VS 徳川光圀氏（黄門さん）

引接寺▶鱗勝院▶阿弥陀寺▶額田城跡▶毘盧遮那寺▶額田鹿島八幡神社▶鈴木家住宅▶引接寺

歴史	<p>佐竹氏・小野崎氏</p> <p>額田城跡</p> <p>佐竹氏 5 代義重の次男義直が築城し額田氏を称した。10 代義亮の時、佐竹宗家と対立し、落城。その後、佐竹義人の家臣小野崎氏が城主になり、7 代まで続いた。その後、佐竹 20 代義宣に攻められ楽城。以後、廃城。城の歴史は 17 代約 340 年間続いた。</p> <p>城跡は額田城跡保存会によって、整備され、歴史の散歩道に生まれ変わった。</p> <p>阿弥陀寺</p> <p>親鸞上人の弟子 24 輩第 14 番定信の開基として、全国に名高く知られている。額田城主小野崎氏は深く浄土真宗を信仰し、阿弥陀寺を額田に移し守護寺とした。阿弥陀寺の建つ広大な土地もかつては額田城の主要な郭の一つであった。</p> <p>鹿嶋八幡神社（額田神社） 1063 年創立</p> <p>社伝では鹿島神社は大同年間（806～809）の創設で、社殿は佐竹昌義が造営。八幡神社は、源頼義が奥州征討の帰途、康平 8 年（1063）に勸性請した。両社は、光圀公の社寺改革で合わせて祀られ額田神社となる。</p> <p>神社参道の杉並木の落ち着きのあるたたずまいは、訪れる人たちを魅了。</p> <p>毘盧遮那寺</p> <p>建久 3 年（1192）文覚上人が開基した遮那寺がはじまり。その後光圀公の時代に観音寺と併せて毘盧遮那寺となった真言宗の寺。本尊大日如来は、文覚上人が持参した源為義の念持仏とされる。明応 4 年（1495）に写経奉納された大般若経は県指定文化財。</p> <p>鱗勝院</p> <p>初め、現在の額田城跡本丸付近に建立され（1330 年頃）、その後代わった城主小野崎氏によって再興され現在地に移った曹洞宗の寺。</p> <p>光照寺</p> <p>額田小野崎氏と江戸氏との抗争から如正が天正 17 年（1589）に建立した浄土真宗の寺。現在は無住寺。</p> <p>徳川光圀（黄門さん）</p> <p>■鈴木家住宅</p> <p>水戸藩時代庄屋を勤め、徳川光圀の娘を嫁に迎えたほどの旧家。光圀が西山荘への往復途中に立ち寄り、その宿泊にも用いたとされる書院がある。鈴木家住宅</p>
----	---

	を訪れると熱のこもった解説で歓迎してくれる。県指定文化財。 ■引接寺 徳川光圀が元禄9年（1696）に創立。水戸徳川家御神葬式に際し、光圀公をはじめ、明治初年まで常陸太田市瑞龍山徳川墓所に埋葬の御霊柩の宿寺となっていた。
--	---

モノ	■特産品 つぼ焼き 地ビール ■食 梅乃屋 「たつつあい噺」ゆかりの七運汁
コト	額田まつり 額田神社の3年に一度の大祭礼 各町内の山車（だし）や神輿が繰り出され、賑わいを見せる。 阿弥陀寺のしだれ桜 桜の季節にライトアップされ、カメラマンも押し寄せる。
ヒト	額田のたつつあい 水戸6代藩主徳川治保の時代に額田に大谷達才という頼知に長けたものがあった。時代への抵抗として民話が残った。額田の民話「たつつあい噺」など。 光圀山引接寺には、トンチ話の額田のたつつあいのお墓がある。 額田城跡保存会 会員、賛助会員を含め額田の皆さんが額田城跡を守っていこうという趣旨のもと、清掃整備、観光案内をしているボランティア団体。現在、額田の城下町という機関誌も出されている。会員は約100名。 観光ボランティアガイド那珂 現在6名、会員により研修を重ねし、ガイドマニュアルづくりを目指している。 松尾芭蕉 額田東郷に松尾芭蕉の句碑がある。額田では多くの俳人を輩出した。なかでも中島五峯、中島素蘭が有名。

効果想定

ターゲット	女性・中高年	
健康効果	コースキロ数 カロリー数	4.4 キロ 140Kcal
地域効果	地域イメージアップ効果 地域連携効果 商品開発・経済効果	<p>佐竹氏、徳川光圀公との関係が深く、歴史の重層性を見ることができる。史跡・神社仏閣を巡ると、当地の歴史的位置の重要性が理解され、地域イメージが高まる。</p> <p>額田公民館、那珂市商工会東額田支部、那珂市歴史同好会、額田城跡保存会 額田まつり実行委員会などが連携・協力して「額田歴史の散歩道」を発刊。</p> <p>額田地区の民話「たっつあい噺」の「七運汁」を今に生かし、「ん（運）のつく」食材がたっぷりの七運汁を開発。</p>

【コース 2】 ●鳥のさえずりと森林浴の道 4.9 キロ

那珂総合公園▶歴史民俗資料館▶茨城県植物園▶熱帯植物館▶県民の森▶鳥獣センター▶
きのこ博士館▶那珂総合公園

<p>歴 史</p>	<p>内後館</p> <p>県民の森の熱帯植物園の辺りから北東側に入っていく道を進むとすぐに、西側の土塁が見えてくる。この土塁から東側が館の範囲であると思われる。内後館は、茨城県民の森のすぐ東側に隣接した平地にあった。</p> <p>一乗院</p> <p>応永 3 年（1396）に常陸大宮市の石沢に建立され、元禄 13 年（1700）に徳川光圀の命で元の久福寺の跡に移された真言宗の寺で、北関東三十六不動尊霊場の 25 番札所。本尊の不動明王は、佐竹氏 54 万石の本尊だった仏像。水戸光圀から賜ったという室町時代作の薬師如来坐像や聖徳太子立像、鎌倉中期に仏師運慶が作ったと伝わる毘沙門天像なども安置。境内には日本一の大きさを誇る毘沙門天像がある。</p> <p>鷲神社</p> <p>「天日鷲命(あめのひわしのみこと)」を祭る。創建は大同二年（807）と伝えられている。</p> <p>比丘尼街道</p> <p>常福寺 2 世の了誉聖罔上人の母蓮如法尼の墓。鴻巣鷲神社の隣に住んだ法尼は瓜連常福寺に預けた子供の修行を見守り、また亡き夫の供養のためにと風雨を問わず毎日通った道の起点。</p> <p>藤田幽谷・東湖顕彰碑（祖先の墓）</p> <p>飯田村から水戸へ出て、学者・政治家となって江戸時代中期から幕末にかけて、藩政の中心を担った父子を顕彰しようと、昭和 12 年（1937）に地元民が中心となって建てたもの。特に東湖は、幕末志士たちの敬慕の対象であった。</p> <p>溜池</p> <p>新田開発が進むにつれ、戦国時代から江戸時代初めにかけて造られた溜池である。県民の森に隣接する戸崎洞前、飯田大洞、鴻巣文洞・又三の溜池は整備が進み 4 か所を巡る楽しみがある。</p>
------------	--

<p>モノ</p>	<p>■ 施設</p> <p>○那珂総合公園</p> <p>アリーナ、温水プール、野球場、テニスコートなどスポーツ施設や野外ステ</p>
-----------	--

	<p>ージなど</p> <p>○歴史民俗資料館 平成6年に那珂総合公園内に開館。古代、中世、近世にわたり那珂市に関わる資料展示</p> <p>○茨城県植物園 植物の知識が学べる憩いの場として昭和56年に開園。</p> <p>○熱帯植物館 東南アジアの熱帯・亜熱帯に生息する植物、約240種、約23,000本を集めている。</p> <p>○県民の森 緑を通じて心のふれあいを広める趣旨で、明治100年(昭和43年)を記念して造られた</p> <p>○鳥獣センター 様々な野鳥のほか、マクジャク、インドクジャクなどの鳥類も飼育。</p> <p>○きのこ博士館 きのこや山菜、漆、竹などの種類や生態などが楽しみながら学べる。平成10年開館。</p> <p>○那珂西部工業団地 元水戸北飛行場跡に造成された工業団地で、音響会社ソニーをはじめとする会社の工場見学も意義あるものである。</p> <p>■特産品 那珂かぼちゃ、地ビール、清酒「菊盛」</p> <p>■食（飯田地区に集まる食・ギャラリー） パン工房「イーツアーツ」 レストラン「かぐや姫」「サン・シェード」「シェスタ」 ギャラリー 「一休」「青木玲子」「アカデミア・プラトニカ」</p> <p>■直売所「ふれあいファーム芳野」「とんがりはっと」「JA」 飯田「なるみ園」</p>
<p>コト</p>	<p>2月に歴史民俗資料館でひな人形展示</p> <p>茨城県植物園で 2月チューリップまつり 5月春まつり 6月春のバラまつり 10月秋のバラまつり 11月秋まつり</p> <p>那珂総合公園で 8月なかひまわりフェスティバル</p>
<p>ヒト</p>	<p>藤田幽谷・藤田東湖父子（水戸藩の学者、政治家） 青山信一郎（教育者、生徒救出の際に殉職） 細谷一郎（NHK専属作曲家）</p>

	<p>比丘尼蓮如法尼 白土松吉翁</p> <p>甘藷増産の研究・指導に生涯をささげ、茨城農業史上に大きな足跡を残した。サツマイモは、今でこそ嗜好品となりつつあるが、戦中戦後は救荒作物であった。干害の那珂台地を救うには、サツマイモ栽培が適していると考え、プランク植えを案出。昭和12年に、一反当たり一千貫収穫できるという「一千貫穫り白土式甘藷栽培法」を完成し、食糧難の時代に大きく貢献した。晩年は、戸崎にある白土甘藷研究所で精進した。</p>
--	--

効果想定

ターゲット	女性・中高年	
健康効果	コースキロ数 カロリー数	4.9 キロ 155Kcal
地域効果	地域イメージアップ効果 地域連携効果 商品開発・経済効果	自然環境と歴史遺産の調和が見られる。 芳野まちづくり協議会および各自治会との連携、地域が作成した案内板設置 アイディアが生かされて特別な食品が生み出されることが期待される。

【コース 3】 ●戸多地区景勝地巡り 3キロ

●田園風景・那珂川を楽しみながら誰でも気軽に歩ける初心者向き

龍昌院▶那珂川堤▶戸多小学校▶文殊院（戸村観音）▶戸村不動尊（戸村城跡）▶龍昌院

歴史	<p>戸村城跡</p> <p>那珂川を南側に望む河岸段丘上に築かれた城郭。平安時代末期、久安5年(1160)那珂通能による。那珂通能は戸村氏を名乗る。戸村氏は南北朝の騒乱に南朝に味方したため滅亡してしまう。</p> <p>その後、120年間ほどこの城は廃城状態であったが、佐竹南家の南憲国が寛正元年(1460)北城を築城し、戸村氏を称して居城した。佐竹義宣の時代、当主戸村義和の跡を継いだ戸村義国の時代、佐竹氏の秋田移封に同行し城は約450年の歴史を閉じた。</p> <p>旧江戸城跡</p> <p>那珂西城に拠っていた那珂通辰は南朝方に味方して北朝方の佐竹貞義と戦い破れて滅んだ。しかし遺児通泰は北朝方に就いて江戸郷を得、その子通高は江戸氏を称し、拠ったところ。</p> <p>龍昌院</p> <p>もとは真言宗の薬師寺といった。文明16年(1484)に曹洞宗に改められ現在の名となった。開祖は戸村城主戸村義広。</p> <p>文殊院</p> <p>永承年間(約950年前)創立された真言宗の寺。佐竹氏の信仰厚く、今も寺は佐竹の紋を使用している。</p> <p>戸村不動尊</p> <p>文殊院から200mほどに戸村不動尊の御堂があり、この付近がかつての戸村城のあったところ。7月下旬の御田植祭の子供たちによる「大太刀もみ」は珍しい行事である。</p> <p>戸板の渡し</p> <p>龍昌院の西奥の那珂川、かつては「渡し」があった。源八幡太郎義家の軍勢が川を渡る際に、「戸板」を並べ浮かべて軍馬を渡したとされる場所。</p>
----	--

モノ	<p>■ 施設</p> <p>○戸多小学校 廃校が決まっているが、宿泊体験・交流施設に生まれ変わることが期待される。</p> <p>○那珂川千代橋下江戸河原 釣り場として知られている。</p>
----	--

	<p>■特産品</p> <p>■食</p> <p>丸太小屋和風レストランよしだ</p>
コト	<p>春は龍昌院のしだれ桜・・・開運花の寺めぐり 5 番寺</p> <p>秋は文殊院の銀杏</p> <p>畑では季節の野菜</p> <p>那珂川に沈む夕日は一見の価値あり</p>
ヒト	<p>鹿島縫殿之介・阿久津藤左衛門、檜山伴七</p> <p>水戸藩 9 代藩主徳川斉昭が幕府から処罰を受けた際に、その雪冤運動に奔走した。</p>

効果想定

ターゲット	女性・中高年	
健康効果	<p>コースキロ数</p> <p>カロリー数</p>	<p>3 キロ</p> <p>95Kcal</p>
地域効果	<p>地域イメージアップ効果</p> <p>地域連携効果</p> <p>商品開発・経済効果</p>	<p>自然環境と歴史遺産の調和</p> <p>県民の森の体験学習との連携、那珂総合公園の活用、歴史民俗資料館の見学</p>

【コース4】 ●うりづらロマンロード 10.5キロ

瓜連駅▶常福寺▶光願寺▶静のムクノ木▶静神社▶静峰ふるさと公園▶斎藤監物の墓▶静・古徳の古道▶古徳沼▶瓜連駅

<p>歴史</p>	<p>瓜連城の戦い</p> <p>常陸国の南北朝の騒乱の舞台となった城郭である。瓜連市街の東側久慈川を望む台地上にある平山城であり、現在は浄土宗常福寺の境内である。</p> <p>延元元年（建武3年、1336年）に瓜連城を中心として行われた南北朝の戦い。楠木正成は常陸北朝方の佐竹氏を討つために、楠木正家を代官として派遣して瓜連に築城させた。</p> <p>後に、佐竹義篤を大将とする足利方の軍勢は武生城を出立して瓜連城に迫り攻略した。正家の居城期間は短かったが、南北朝史上貴重な史跡。</p> <p>古徳城跡</p> <p>古徳沼のすぐ北側の山が城址。山の標高は90m弱。比高は40m程度である。山は尾根状に西側から続いており、尾根の先端部近くがくびれており、そのくびれ部から先を城としている。永和元年（1375）常陸大掾4良幹の子、民郡大輔義純が築城して、古徳氏を名乗ったのが始まりという。永正11年（1514年）江戸氏の内乱によって古徳城は江戸氏に攻められ落城、古徳氏は滅亡したという。城の歴史は不明な点が多い。</p> <p>城菩提城跡</p> <p>古徳城の北東1kmに常陸風土記にも登場する静神社がある。ここから北に700m、2つ北側の山、「城菩提山」にある城である。この城も西側から東に延びる尾根の先端部付近に築かれている。</p> <p>常福寺</p> <p>南北朝時代の延元年間（1336～1339）に了実上人によって開山。佐竹氏の秋田移封後は徳川家との関係が深く、初代藩主頼房の没後は菩提寺として尊崇された。</p> <p>弘願寺</p> <p>かつて静神社の境内に建立されたが、徳川光圀の寺社改革でこの地に移った。天保年間（1830～44）には水戸藩の政策により廃寺に。明治2年にこの地に復興した。</p> <p>静神社</p> <p>かつて東国の三守護神として崇拝された。常陸二の宮として古くから信仰を集めた。神門の前には、昔ここが織物の里であったことを示す『常陸国風土記』の婢が建っている。</p>
-----------	--

モノ	<p>■施設</p> <p>○静峰ふるさと公園 「日本のさくら名所100選」に選ばれた八重桜の名所。</p> <p>○古徳沼 約5ヘクタールの農業用ため池。昭和41年にオオハクチョウが飛来して以来増え続け、昭和61年には130羽が飛来。年間10万人近い観光客を集める古徳沼は、地元の観光名所として貴重な存在となっている。</p> <p>○宥尊の墓 小松寺を再興し、真言宗派の拡大に尽力した僧侶で常福寺の聖問上人の父。墓は中里の山中にあり、市指定文化財。</p> <p>○権現塚古墳 静神社に関係がある者の墓かと思える前方後円墳で市指定文化財。</p> <p>○白蓮塚 この地は、了実上人が最初に常福寺創建したところで、その由来を刻して江戸時代に建てられた碑である。</p> <p>■特産品 瓜の里</p> <p>■食 ゆばの里静香庵 ポコ・ア・ポコ農園 無農薬、無化学肥料による野菜栽培 2007年6月から開始</p>
コト	<p>10月 常福寺で二十六夜尊 11月 静神社 秋季大祭</p> <p>○うりづらの伝説（四匹の狐）源太郎（瓜連）勘二郎（本米崎）紋三郎（笠間）四郎介（那珂湊） 久慈川と那珂川がゆるやかに流れているところに4匹の狐の兄弟がいて各、瓜連、那珂、笠間、那珂湊にわかれ人間を助けていて、狐たちはその守り神として、まつられるようになった。四匹の狐を稲荷神社として、長い間崇敬したという。</p> <p>○静のムクノキ 桂木稲荷神社に県指定の天然記念物「静のムクの木」がある。八幡太郎義家が奥州征伐の途中、軍をここに休めたとき、持参した鞭をさし置いたまま出発してしまい、それが根付いて今日のような大木になったといわれている。</p> <p>○静神社の磯降り（浜降り）</p>

	<p>静神社から酒列磯前神社までは約 28 キロ（7 里）、道筋のムラでは、神幸のお旅所を設けて神輿を迎え入れる。そして静神社の神輿に供奉して、ムラの鎮守の神輿が、ムラの若者たちにかつがれて浜降りしていく。寛文 7 年（1667）以降毎年実施され、元文年間（1736～1740）のある時期から、4 月 1 日を祭日とし、3 年に 1 度になった。</p>
ヒト	<p>斎藤監物 静神社の神官。安政 7 年（1860）3 月 3 日の桜田門外の変に参加した水戸浪士 18 人の一人。</p>

効果想定

ターゲット	女性・中高年	
健康効果	コースキロ数 カロリー数	10.5 キロ 330Kcal
地域効果	地域イメージアップ効果 地域連携効果 商品開発・経済効果	

資料2

ふるさとプロジェクトを活用した 那珂市暮らしのデザイン大学校（那珂市生活デザインミュージアム構想）

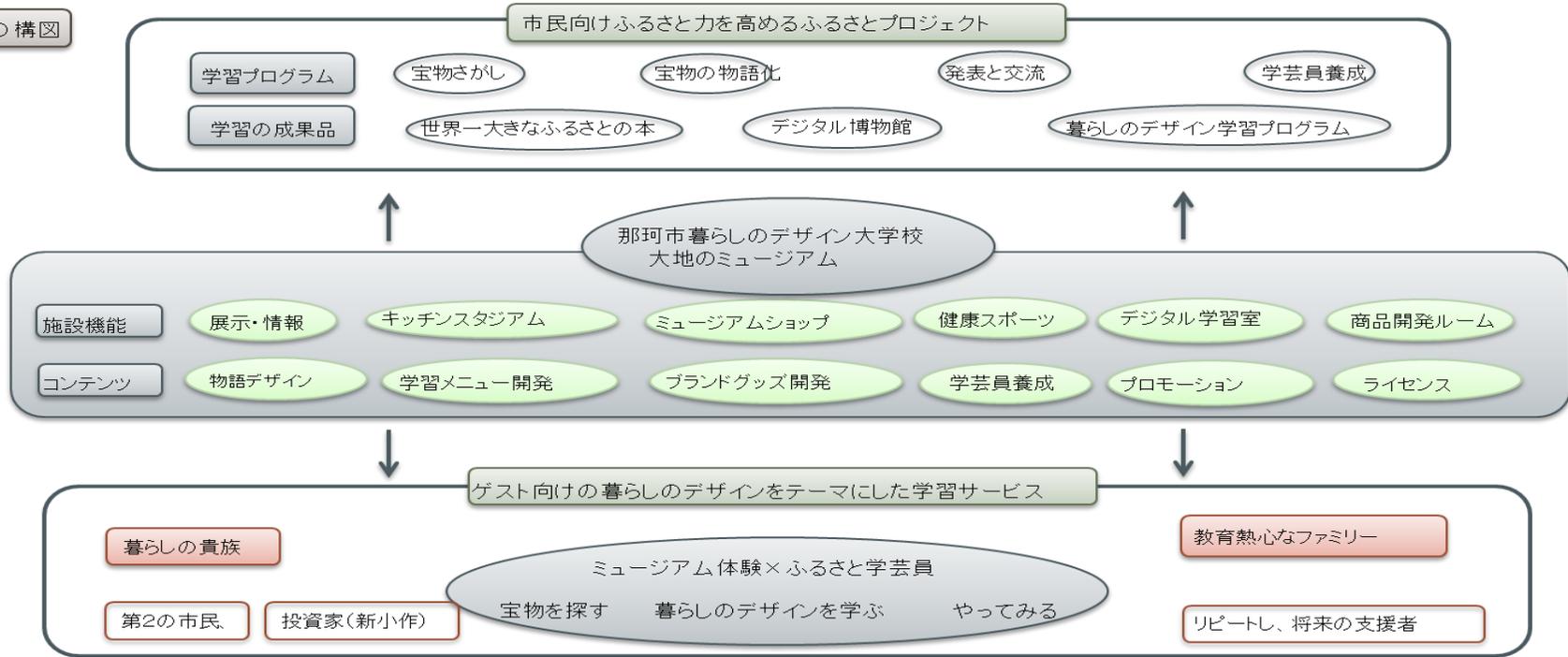
コンセプト

那珂市が持つ地域資源の魅力(=ふるさと力を学ぶ環境と人材)を活かし、内外の人々が、「ふるさとの暮らしとデザイン」を学びの場を創出するためのプロジェクトを起動することで、交流人口を増大させ、新たな富の創出をめざします。

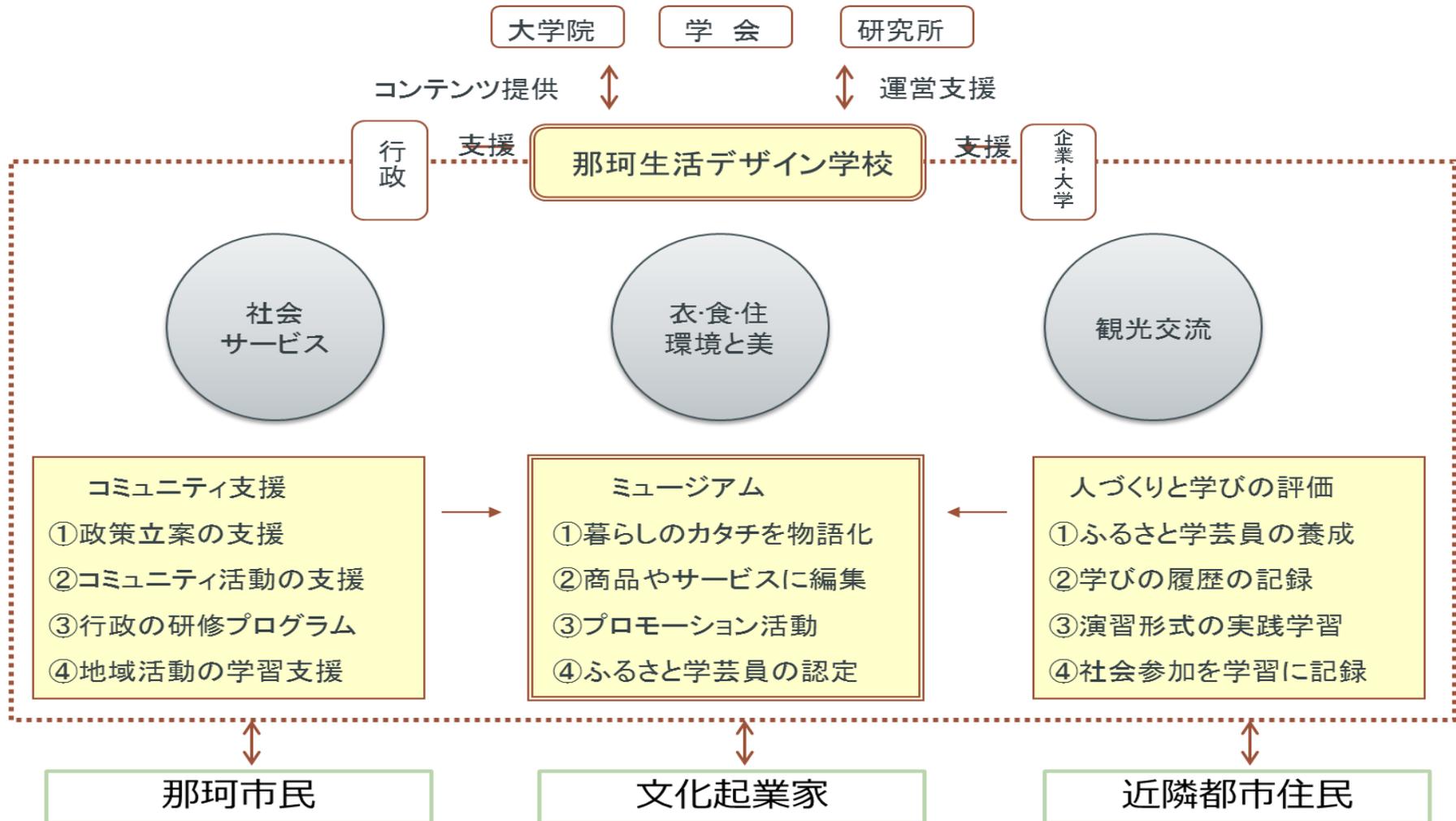
事業の展開

- ①那珂市の地域資源を活用し、「ふるさと力」と「暮らしのデザイン」をテーマにした「ミュージアム楽習都市」を目指します。
- ②プロジェクトを企画運営し、人々が楽習する拠点施設「暮らしのデザイン大学校(大地のミュージアム)」を創設し、那珂市民の「ふるさと力」(愛着、交流、まちづくり参画)を高める学びを提供します。
- ③ミュージアムは、学びの成果を社会に活かすことができる「ふるさと学芸員」を養成し、活動の場を提供します。
- ④ミュージアムは、学びのプログラムから育まれる「ふるさと力」を糸口にも、商品サービス活動を開発します。
- ⑤開発した商品は、「都市の富裕層」(暮らしの貴族)と「子育て熱心なファミリー層」にターゲットに、那珂の生活デザインを体験することができる「多彩で、奥行きのある学習商品(プログラム)」を提供します。
- ⑥以上の、事業を総合的に展開することで、交流人口を増大し、ブラン力を高め、新たな雇用創出と那珂市への投資を促します。

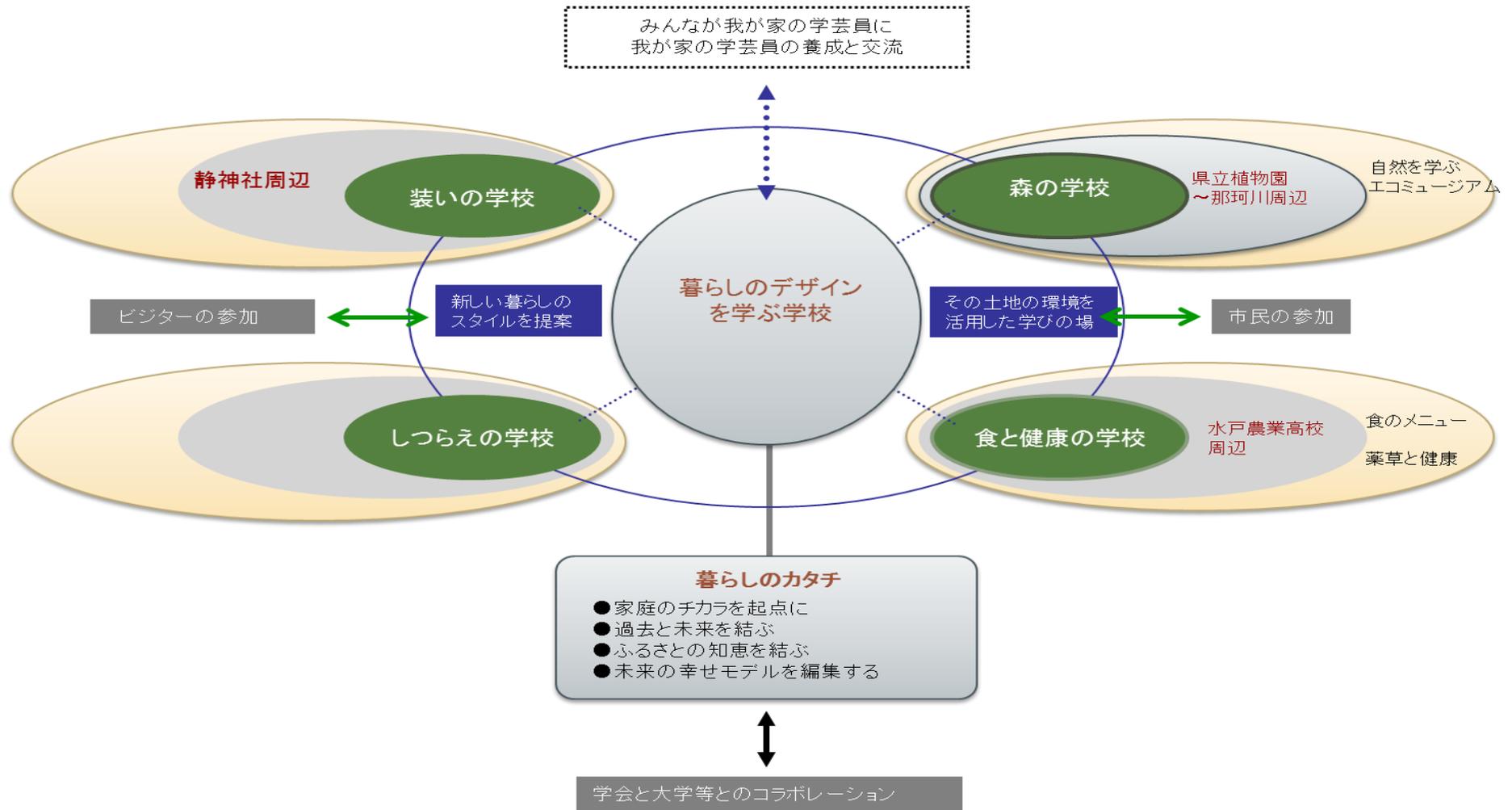
展開の構図



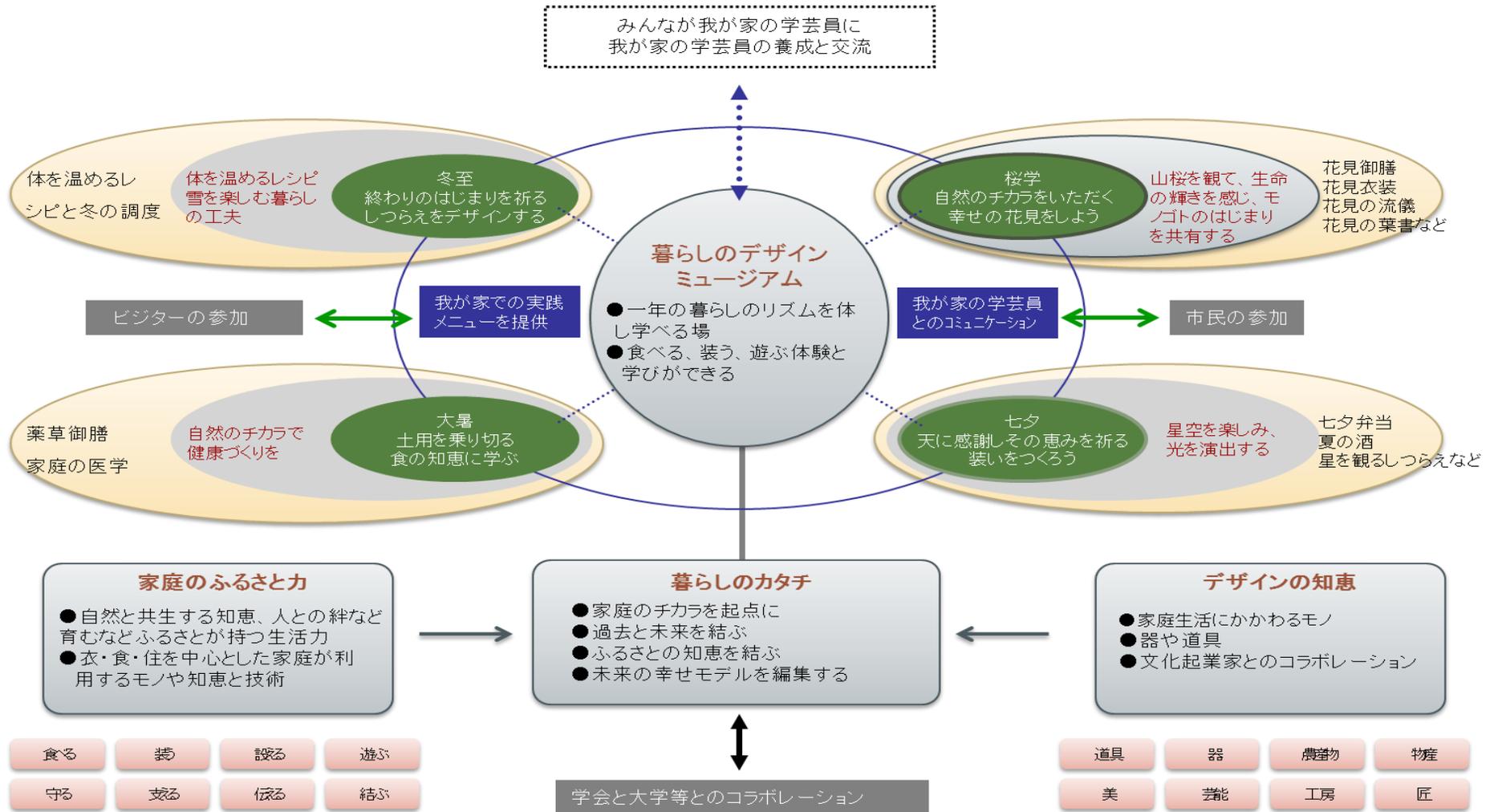
■ 基本的な考え方



■ 暮らしのデザインミュージアムの事業イメージ(サテライトキャンパス編)

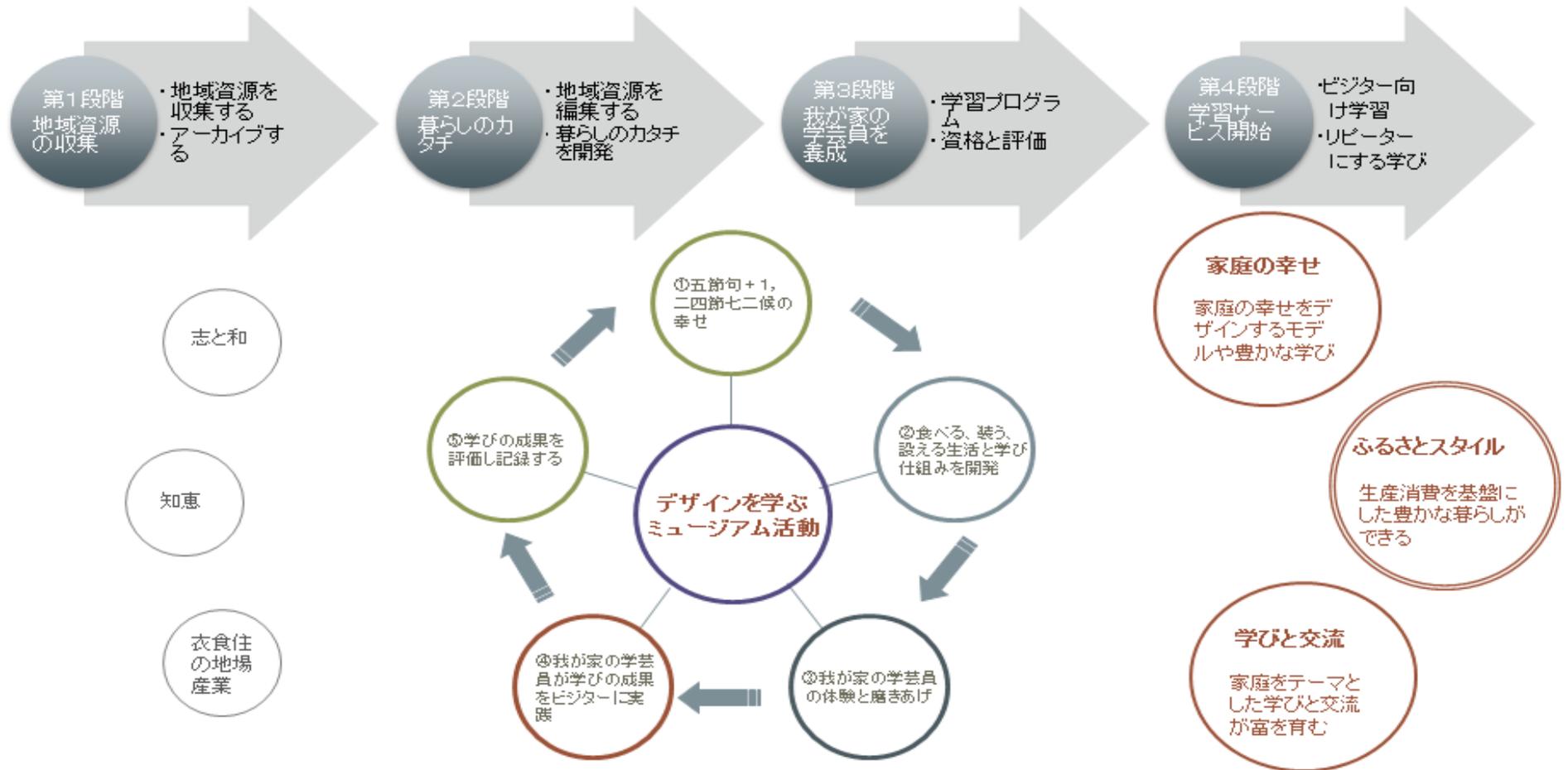


■ 暮らしのデザインミュージアムの事業イメージ(季節サイクル編)



■ 暮らしのデザインミュージアムの事業展開

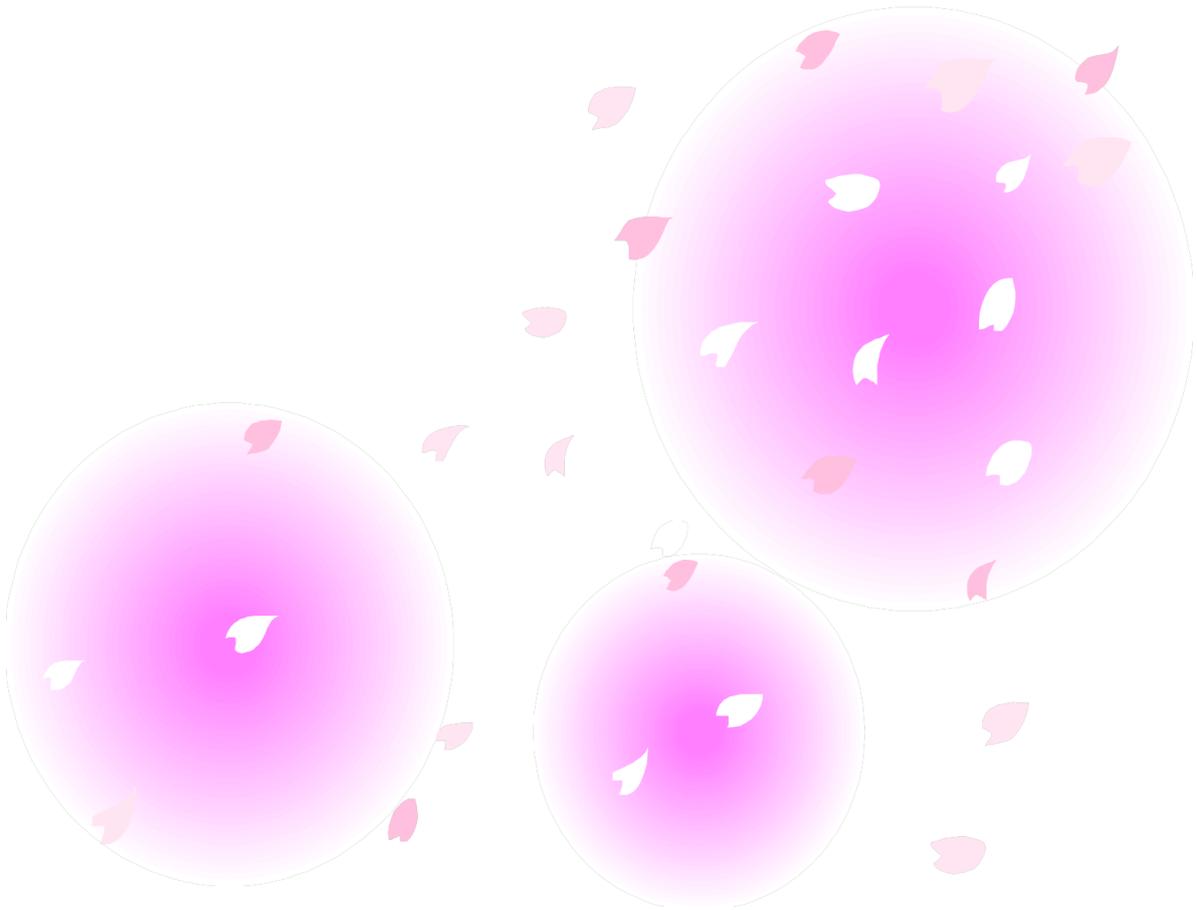
- ① ふるさとには、暮らしや学びを豊かにする宝物(=地域資源)がたくさん眠っています。
- ② みんなの知恵とチカラを持ちよるミュージアムプロジェクトを起動し、“暮らしのカタチ”をテーマにしたミュージアムをつくります。
- ③ “暮らしのデザイン”を学ぶミュージアムで、未来のふるさとの家庭と地域社会を担う“我が家の学芸員”を養成し、富を未来を創造します。



資料 3 . 那珂市観光振興計画策定委員名簿

役 職	氏 名	所 属・役 職
委員長	鎌田 彰仁	茨城大学 人文学部 教授
副委員長	松本 治郎	まち里研究
委員	青山 壺美	なかなか塾 前塾長
	青山 政弘	JAひたちなか営農部 部長
	河部 悦夫	JTB関東法人営業水戸支店 支店長
	加藤 昌次	那珂市観光協会 副会長
	鴨志田 廣	那珂市商工会 事務局長
	木内 敏之	木内酒造合資会社 部長
	清瀬 一浩	茨城県商工労働部観光物産課 課長
	塚原 正彦	常磐大学 コミュニティ学部 准教授
	林 恵二	茨城県農林振興公社 茨城県植物園管理事務所 所長
	福田 耕四郎	那珂市観光協会 副会長
	木村 利文	那珂市企画部
	仲田 昭一	歴史民俗資料館
宮田 俊三	那珂市産業部	

(委嘱時)





那珂市観光振興計画

那珂市 産業部 商工観光課

〒311-0192

茨城県那珂市福田1819-5

TEL: 029-298-1111